

授業概要

金融とは、最終的な借手（企業）が、最終的な貸手（家計）に対して借用証書、社債や株式という本源的証券を発行して資金調達することを言う。金融論は、お金の流れに関する様々な経済現象（「金融」）を研究する学問である。

一国のマクロ経済における総需要の6割から7割を占める家計消費。景気や経済成長を論じるときにはこの家計の動向がカギを握る。本講義は、家計によってほぼ例外なく利用されている現代の金融機関及び資本市場について、消費者の立場からこれを平易に解説しようとするものである。

これからは、国や企業が一般国民を守ってくれないかもしれない。自己責任の原則が叫ばれているように、自分の未来は自分で何とかしていかなければならない時代になった。こういう時代には、「金融」に関する知識を身につけ、如何にして自分が持っている資産を上手に運用できるかが重要となる。この講義がその手助けになればと思う。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション/金融論で何を学ぶかを講義する
第 2 回	消費者と金融行動/家計の貯蓄、資産選択、借入行動について講義する
第 3 回	消費者と金融市場/金融市場、金融商品、家計の金融資産、家計の負債について講義する
第 4 回	消費者と貯蓄/貯蓄の決定要因、貯蓄率の推移について講義する
第 5 回	金融商品の選択/家計と金融知識、金融商品の選択について講義する
第 6 回	間接金融型の金融商品/銀行預金、郵便局の貯金商品、保険について講義する
第 7 回	直接金融型の金融商品/公社債、株式、投資信託、デリバティブについて講義する
第 8 回	消費生活と金利/金利と経済活動、消費生活と金利について講義する
第 9 回	現代の消費者信用/消費者信用、消費者信用市場の現状について講義する
第 10 回	消費者金融と法律/改正貸金業法の成立と課題、消費者金融と消費者保護について講義する
第 11 回	金融行政・金融政策と消費者/家計と金融政策の関連性、金融政策について講義する
第 12 回	金融市場に関する規制/発行体・投資家・仲介業者に対する規制について講義する
第 13 回	ファイナンスの基礎理論/企業の資金調達方法、借入の種類と返済方法について講義する
第 14 回	消費者と国際金融/外国為替市場と為替レート、円高相場の変動と消費生活について講義する
第 15 回	仮想通貨・フィンテックの仕組み/GAFA、消費者金融とフィンテックについて講義する
第 16 回	筆記試験

到達目標

金融の役割を基礎から学べることを目標としている。

本講義では、資産運用と金融商品開発の分野、金融リスクの分野、資金調達の分野という3つの側面から、金融のリスクリマインドも学べる。

履修上の注意

この授業は、講義形式を中心とするが、受講者の主体的な参加を重視する。この授業で出る金融経済実態や課題について、質問や議論に積極的に取り組んでほしい。授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。授業開始後30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

予習・復習

授業のレジュメを把握し、新聞・WEBサイトの金融経済に関する記事をよく読むこと。配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

評価方法

学期末試験70%、授業内レポート20%、受講態度10%。

テキスト

最新の情報をもとに講義を進める。だから講義の中では特定の教科書は使用しない。